



命ある風景を生み出す造園

第6回技術情報共有発表会に150人 7つの発表と講評、交流会を開催

第6回技術情報共有発表会は10月12日、東京大学文京区弥生の東京大学・弥生講堂一条ホールで、約150人の参加を得て開催した。当日は日造協から6つの発表、(公社)日本造園学会から1つの発表と講評がなされ、発表会後は交流会も行った。

発表会は冒頭、藤巻司郎会長があいさつ。「ご承知の通り、造園工事の目的達成は、工事完了後の管理などにも工夫が問われており、その技術や知識を共有する場がこれまでなく、平成19年の第1回技術情報共有発表会をきっかけとして、毎年の恒例事業として今日に至っている。本日、東日本大震災の被災地に根差していたからこそできた取り組みや、鈴木先生からの「造園技術とプロデューズの関係」の講演など、皆さんの参考となる貴重なお話をいただく機会を得、会場の東京大学の小野先生には講評をいただくことにしている。この発表会で、さまざまな情報を共有することにより、本日の来場の皆様、今後の業務にお役立ていただき、失われつつある緑を創造し、より良い社会環境に貢献できることを祈念している」と述べた。

の場となり、日造協東北総支部から九州総支部まで5つの発表、日造協技術委員会から1つの発表、(公社)日本造園学会から鈴木雅和筑波大学教授が発表。

質疑応答の後、(公社)日本造園学会小野良平東京大学准教授が講評を行い「伝統に新たな現代的工夫を加え、将来につなげていく発表を聞き、命ある風景を生み出し、守っていくのが造園であることを改めて見直し、提案していくことが大切」との旨を語った。

来年は鳥取県で開催する。終了後は、交流会も実施し、今回は関東・甲信総支部の方々が準備された。大いに活用いただきたい。日造協では、これからも有意義な会となるよう努力したい。皆様の協力をいたしたい」と述べた。



小野良平准教授

忌憚ない意見続々 新法人の顧問会議を開催

移行後初の顧問会議を開催

今年4月からの一般社団法人への移行に当たって理事数の削減が図られ、それに伴って「顧問会議を設置することとした」とのことです。11月1日(木)の第1回顧問会議が当協会会議室で開催された。

藤巻会長は開会に当たり「日造協活動についての貴重なご意見をいただきたい」とあいさつ。会議では新たな委員会体制や技術情報共有発表会、全国造園フェスティバルなど、事業実施状況の報告を行った。

その後の意見交換では、全国造園デザインコンクールについて、課題となる公園や住宅をもっとリアルに通じるところがあります。あるお寺に樹齢300年から400年のビャクシン「イブキ」の木がありますが、木には寿命がありますから、だんだん腐ってきています。

樹林

日本人は、自然に対して畏れを抱くとともに、信仰の対象にもしてきました。日本庭園も、そうした自然への敬いの心を表現したものです。庭師たちは、木を手入れする時も、そうした思いを忘れません。

樹木への思いやりの心を大切に

日造協理事・(株)小林造園代表取締役 小林正典

ロシアの学者だったと思いますが、木の前に鉢を持って立つと、木が「切られる」と警戒心を持ち、電磁波を発するそうです。

若い人たちに、手入れをする時に、「傷つけるのちがうで。あんたやらを良く

意味で、フィンランドの森の人は、木には精霊が棲んでいるとされているので、前もって「こういう目的で切ります」と伝えるためだそうです。日本では昔からイチヨウやクスノキには神が宿っているといわれています。

そういう木を見ていると、下手に延命処置をとるよりも、その二世を採って育て、植えてあげるのが一番いいのではないかと思います。

違ふ環境から違ふ環境に移動させられるのですから、せめて土壌だけでも育った土壌に近づけてやるのが、我々この仕事に携わる者の責任ではないでしょうか。もっとと樹木を労りの目で見てください。今、2メートル



から3メートルほどになっています。他にも古い樹木があれば、二世を育てようと思ひ、後継者の育成をしています。樹木は、人間のように居心地の良い場所に移動することができません。だからこそ、樹木の生態、性質を知りつくしている植栽基盤診断士はなくてはならない資格だと思っています。

環境づくりに造園力を発揮しよう

東日本大震災復興祈念シンポジウム開催

東日本大震災復興祈念シンポジウム「いのちを守る緑・いのちを育む緑」は11月7日、仙台市の勝山館で、本部および東北総支部の主催、国土交通省東北地方整備局、宮城県、仙台市などの後援を得て開催した。

当日はまず、日造協理事の涌井雅之東京都市大学環境情報学部教授が基調講演。東日本大震災の復興にあ

たり、自然は人間がコントロールできる、という考えと、自然により培われた環境・文化の多様性を活かすという考えの間に、大きな溝がある。

環境問題が世界的な問題となっているが、二酸化炭素の増加は人間によるもので、これに起因する温暖化により生物多様性の破壊が進んでいる。こうした環境ストレスは、弱い人により大きな影響を与える。人

感じられるような募集案にしたり、これまでの作品をまとめた書籍の販売など、さらなる活用が提案され、そのほか、大型プラントを用いた都市修景、さまざまな手法による学生の実験を即す取り組み、支部との交流の活性化などの提案がなされた。

なお、出席した顧問は以下の通り。大泉紀男氏、大坪貞保氏、熊谷洋一氏、佐藤四郎氏、丸山宏氏。



シンポジウムのようす

から3メートルほどになっています。他にも古い樹木があれば、二世を育てようと思ひ、後継者の育成をしています。樹木は、人間のように居心地の良い場所に移動することができません。だからこそ、樹木の生態、性質を知りつくしている植栽基盤診断士はなくてはならない資格だと思っています。

本日、「いのちを守る緑・いのちを育む緑」を考える良い機会にしたいとの旨を語った。

その後、脇坂隆一国土交通省東北地方整備局建設部都市調整官、森山雅幸宮城大学食産業学部環境システム学科教授、遠藤進仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課課長、山本紀久(株)愛植物設計事務所代表取締役会長、野田坂伸也(株)野田坂緑研研究所代表取締役の5氏をパネラーにシンポジウムを行い、海岸環境の多様性、平時の海岸林に求められる潮風、寒風、飛砂に対する役割、目には見えないが大切なコミュニティなどを踏まえた生活密着型の環境づくりが必要であり、機能と自然、景観に配慮できる造園が、もともと地域の中に入って取り組むべきな

日本代表に湯本さん鈴木さん

技能五輪国際大会代表者決まる

中央職業能力開発協会が、第42回「技能五輪国際大会」の日本代表選手を決めた。造園職種は日造協長野県支部の(有)信州緑地・湯本光さん、(株)第一緑地・鈴木幸さんが出場することとなった。両名は11月29日、日造協本部を訪れ、大会への抱負を語った。

国際大会は、来年7月にドイツ・ライプツィヒで行われる。国際大会で日本選手が活躍する姿は、ものづくりの素晴らしさをアピールする絶好の機会であり、青年技能者の技能向上につながることから、厚生労働省も支援を行う予定。

2013新年 造園人の集い

2013年 1月7日(月) 18時より

品川プリンスホテルアナックスタワー5階「プリンスホール」

東京都港区高輪4-10-30 ☎03-3440-1111

皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください

特集 第6回 技術情報共有発表会 これまで最大の7つの発表 伝統＋現在、そして未来へ

震災を振り返り、技術的な情報とは言えないが、自らの体験から何かを感じ取っていたら、地震発生からの30日間についてお話ししたい。

東日本大震災が発生。運転中に想像を絶する揺れに急停車した。目の前のビルのガラスがバリバリと割れ落ち、信号はすべて消え、渋滞が始まった。

会社に戻るとキャビネットはすべて倒れ、足の踏み場がないほどメチャクチャで、ラジオから「荒浜で200人の遺体が…」との

震災の日から花に出会うまでの30日間

古積造園土木(株)

古積 昇氏

東北総支部

声も聞こえてきた。いったい何が起きているのか、自宅に行くと会社と同じような状況だったが、家族の無事は確認でき、夕方になって、現場に出ていた職員が次々に戻ってきた。

しかし、海岸近くの現場にいた職員から「助けて」とのメールが届き、その後全く連絡が取れず、1時間後に「助かった」とだけのメールが届いた。後で聞くと、車で走行中、危険を感じ、民家の屋根に登った直後、津波に巻き込まれたことだった。

しかし、地震から4日後になっても連絡の取れない職員がおり、不安はぬぐえず、相次ぐ余震に子どもたちは怯え、私も身動きが取れないため、家族は妻の実家に避難しました。

水を確保するためにタンクを買求め、給水。その帰り道、給水所に並ぶ人たちを見て、給水活動を開始し、合わせて床下に水が溜まった家屋の排水作業を実施。東京の友人らと連携し、支援物資の輸送などを行った。ガソリン不足の中、救



し、困難な場合を想定して、後継樹の確保を考慮した。地上部、地下部にさまざまな対策を施し、一時は新芽も確認できたが、自然の力の前に努力は報われなかった。一方、後継樹の育成は、接木、実生ともに苗の確保ができ、成果を得た。

現在、接木7本、実生苗18本が順調に生育。支部では、育成を依頼している住友林業筑波研究所と技術指導をいただいている3団体と後継樹の有効活用を提案をしたいと思っている。

今回の「希望の松」の保護活動の検証をどこで行うか、どう生かすかが今後の課題だが、「希望の松」は、被災地から多くの課題と教訓を教えてくれ、真の「希望の松」になり得ると確信している。

鳥取県では、昭和60年の鳥取国体（わかとり国体）を中心に、昭和56年から62年に多くの道路整備が進められ、街路樹の成長に伴い、全体として美しい景観となつていくものの、一部には問題がある樹木が存在し、物損などの事故も発生していることから、こうした問題のある樹木への早急な対策が求められている。

実際、コウモリガによる虫害、胴枯病、木材腐朽病、樹皮の脱落による辺材の露

出、空洞による本部の肥厚が推測される主幹、入り皮になりつつある主幹、辺材から心材に及ぶ腐朽、主幹基部と構造物との干渉などが見られる。

このため今回、国道431号線について調査を実施した。

調査は、樹木医などの高度に細分化された専門家が、レジストグラフなどの専門的な道具を使って行うのが一般的とされるが、431号線の街路樹だけで

街路樹の生育に関する調査について

(株)渡辺造園

伊藤 亨氏

中国総支部



600本以上あり、こうした街路樹の調査を1本1本の街路樹に対して行うのは、時間も予算も間に合わないため、どう行うのが合理的かを検討した。

今回の調査は、災害の発生を防ぐことが第一で、全体像の把握が急務であることから、多くの情報を素早く収集し、一元化する「街路樹データベース」を用いた街路樹の調査方法を検討し、実施した。

街路樹については、通常の維持管理のため、その業務を行う会社が街路樹の状況を把握しており、その会社をはじめ、県、樹木医などの日常的に街路樹の状態を把握している者が、「予備調査」として、普通ではないと思われる街路樹の情報を「街路樹データベース」に提供し、こうして集まった情報を基に、重大性が高い情報について、「詳細調査」を行うことが、合理的であると考えた。

ただし、普通ではないと思われる街路樹の判断は、各社、人それぞれに異なるため、標準化が求められることから、異常の見つ

け方と情報整理の方法について、『樹木医必携』の街路樹診断カルテを使用、実地演習などを行い、参加者同士で診断結果を検証することで、診断の標準化を図った。

こうした手法によって、『街路樹データベース』に一定の水準で、素早く街路樹の情報を集めることができ、実際2日ほどで予備調査が完了。データを整理する私の作業が追いつかないスピードだった。

今後、データベースの充実を図り、健全な街路樹の育成と安全を図っていき



発表会のようなす（希望の松について発表する米内氏）

第6回技術情報共有発表会は10月12日、東京大学弥生講堂・一条ホールで開催した（記事1面）。本号では、日造協の6つの発表、(公社)日本造園学会の発表と講評発表と講評の概要を紹介いたします。

陸前高田「希望の松」保護活動について

(株)米内造園

米内吉栄氏

東北総支部

東日本大震災は陸前高田市の沿岸部市街地の大半を瓦礫に変え、高田松原を流失させた。1年半が過ぎた今でも復旧は一部しか進んでいない。

地震は、いつ発生するかかわらず、この陸前高田のような状況に、いつどこが見舞われるかわからない。一番大事なことは、命を守ることであり、その上で、私たち造園人としての使命をどう果たしていくかだ。

今回はその一端として、全国的にも有名になった「希望の松」について、紹



介するが、平成24年7月15日より、私たちは、枯死した一本松の取り組みから外れ、大手デイスブレイザイン会社社がモニメントとしての加工を行うと、報道等で発表されている。

さて、岩手県支部は4月18日に「希望の松」の保護対策の許可を陸前高田市長からいただいたき、日造協本部、

一般の方々からすれば、日造協会員の皆さんはこの協力者であり、自らの実績として、さまざまな機会に活用していただきたい。

保護対策にあたっては、4月22日に現地に入り、地盤沈下により、汀線が30mあまり近づき、大潮の時には根元まで冠水。さまざまな事情から移植困難であることを確認した。

そのため、現位置での生育持続を第一義的な目標とし、困難な場合を想定して、後継樹の確保を考慮した。地上部、地下部にさまざまな対策を施し、一時は新芽も確認できたが、自然の力の前に努力は報われなかった。一方、後継樹の育成は、接木、実生ともに苗の確保ができ、成果を得た。

現在、接木7本、実生苗18本が順調に生育。支部では、育成を依頼している住友林業筑波研究所と技術指導をいただいている3団体と後継樹の有効活用を提案をしたいと思っている。

近年、九十九里海岸県有保安林は、地盤沈下に伴う地下水位の上昇による過湿害、松くい虫被害の急増、東日本大震災の津波被害も加わり、日本の財産ともいえる白砂青松の景観が失われつつある。

千葉県支部では、社会貢献活動の一環として、千葉県で推進している「法人の森制度」を活用。造園専門業としての知識や人材を活かして、調査研究をもとに対策を講じて、植樹活動を行い、海岸林の有効的な再生「造園協会の森」に取り組むこととした。

現地は千葉県長生郡白子

町の海岸県有保安林で、雑草が繁茂し、大部分のクロマツは枯死伐採され、残るクロマツも立ち枯れが目立っていた。

そこで、現存クロマツの枯損木の根系と土壌を調査し、低コストで可能な土壌改良方法と植樹計画を検討。直根は腐朽枯死し、側根はGLから10～30cm程度の間に伸長していた。

土壌は、現地の地形などを考慮し、5カ所で①土性・土壌断面調査(地下水位確認)、②土壌硬度、③透水性、④酸性ph、⑤電気伝導度ECについて調査した。

すべて砂土、透水試験優

良、微アルカリ性に近い中性、EC0.1dS/m未満で肥料分不足が考えられ、地下水位は、2カ所が70cm程度、3カ所100cmで確認できなかった。

この結果、丘状の場所は、保水性や保肥力に乏しく、有機物施用による改善、低い場所は地下水位が高く、根腐れによる枯損が懸念され、排水対策を行った。

植樹は平成24年3月に千葉県支部をはじめ、地元の方々の協力を得て、県の整備指針によるクロマツと広葉樹の混交林で、地域住民の要望、周辺樹木調査と

生息樹木の選抜、維持管理しやすい配植とし、クロマツ500本と、タブノキ、ヤブニッケイ、オオシマザクラ、エノキ、ネムノキの合計1000本を植樹。

5月から8月の経過観察で、クロマツの成長率は、2%から16.91%となった。観察から間もないため、有効なデータとは言えないが、低い場所、水位の高い所の成長率が高く、初期生長には、湿潤の方が良いという傾向が見られた。

今回、潮に強い樹種として、タブノキやヤブニッケイを選んだものの枯れが予想以上に、植栽基盤診断士としての力量アップの必要性も痛感。今後、見識を広げ、造園力を活かし、地域の活性化につながる森づくりを行っていき

植栽基盤診断士を活用した海岸保安林の再生

林 和人氏

関東・甲信総支部

林 和人氏



今回の調査は、災害の発生を防ぐことが第一で、全体像の把握が急務であることから、多くの情報を素早く収集し、一元化する「街路樹データベース」を用いた街路樹の調査方法を検討し、実施した。

調査は、樹木医などの高度に細分化された専門家が、レジストグラフなどの専門的な道具を使って行うのが一般的とされるが、431号線の街路樹だけで

江戸から伝わる伝統技法 大クスノキ立曳き

伊勢造園建設(株)

池端

潔氏

九州総支部

「森と水の都・熊本」を象徴する白川の河川改修に合わせて、河岸際の大クスノキの移植が求められた。

他の樹木については、10年前から移植作業が進められ、今回移植するクスノキは、河川改修後に整備する親水公園のシンボルツリーとなるNo.60幹周3・80m、樹高12m、枝張12m、規格重量70t、No.70幹周4・25m、樹高15m、枝張14m、規格重量100tの樹木で、学識経験者、発注者、施工業者による産官学一体となった委員会で、勉強会、研修会を通じて、技術・情報・知識の共有化を図ったうえで、検討を行った。

その結果、シンボルツリーとして、大幅な樹形変更を行わず、根鉢へ極度の負担を掛けず、安全な施工を行えるものとして、九州で



は初めての試みとなる立曳き工法を選定。合わせて、伝統工法の習得、継承や市民参加型のイベントとすることとした。

伝統の立曳きを行うに際し、根鉢の架台となるカンザシやコシタ、コロ、ミチヤ、架台を引くワイヤーを巻き取るカグラサンなどの道具を作成。掘り取り、根巻き、荷台取付などの事前準備を行い、平成24年2月8日に市民公開、市民参加方式のイベントとして、大クスノキの立曳きを実施。会場には多くの市民も訪れ、近隣小学校の5年生などがカグラサンでの

巻き取り作業に加わった。立曳きに際し、安全管理上、伝統的な立曳きでは、不足な部分があり、トラワイヤーを設置し、倒伏防止を図り、立曳き時は、ワイヤーを張り替えながら倒伏を防止。移動が5%の下り勾配で、加速による急な転がりを考慮し、逆回転のカグラサンを設置した。

そのほか、幾つもの滑車を組み合わせ、牽引に必要な力を小さくし、人力で軽く巻き取れるようにするなどの工夫を行った。

この結果、無事に伝統工法による移植が無事完了し、河岸河川改修により九州北部豪雨での被害もなく、多面的に有意義な樹木移植を行うことができた。

造園技術と プロデュースの関係

筑波大学教授

鈴木雅和氏

(公社)日本造園学会

大学に来る以前、14年ほど住都公団で仕事をしていたので、造園建設業には親しみがある。当時は、いい時代でかなりの量の仕事をし、ほとんどの図面を自分で書いた。昭和の終焉とともに大学に移り、現在、環境デザインという、簡単に言うと「花と緑による地域再生」を行っている。

つくば市で30年くらい放置してしまった梅林を再生する取り組みがあり、行つてみると敷化しており、図面を貰おうと思つたら、な

人ほ正直できれいになると多くの人が集まる。6年間で1億2千万円を投じたが、駐車場を有料にできる

市のお荷物だったが、観光協会で管理することになりなどに関わらせていただいている。

今後、よりストックの活用が求められる。ぜひ、造園の力を活かして、取り組んでいって欲しい。

同じ緑でも、山の緑は、農林水産省が管轄し、都市や道路の緑は国土交通省の管轄下にある。造園界は後者との関係が深い

造園業界からみれば異端であることを「承願したい。」

ところが、大分県のある造園業者は、自然林復元研究会を立ち上げ、苗高15・20cmの芽苗と呼んでいる無肥料で雨水だけで育苗した150種にも

り一安心。市の発注は入札で、実際に3年目に業者が変わり、一から指導しなければならなかったが、協会の自主管理となり、安定した管理ができるはずだ。

これが再生の仕事で12年掛かったが、住都公団時代は白紙に絵を描く仕事と言えたが、再生の仕事は、もとの状態にどう戻すか、発生したノイズをどう消すかという仕事ともいえ、やってみると面白く、そうした仕事ができるようになり、沖縄の首里城では、冬の観光客をどう増やすかとい

また、造園は、命のある空間を扱っているという点とも全体の発表から強く感じられた。

大クスノキの立曳き、石垣の復元は、伝統工法でありながら、現在の新しい技術や工夫が加えられ、立曳きは、市民の参加を得ていることが、特に新しく、親

命ある風景を生み出し、守っていくのが造園であることを、この機会に改めて見直し、提案していくことが大切だと思つた。

常盤橋公園における 伝統工法による石垣の復元

(株)富士植木

松本

透氏

技術委員会

江戸城の城郭門で、国の史跡である「常盤橋御門」の門跡石垣を復元した。

石垣は、1629年に築造され、江戸時代の東海・南海大地震で崩れ、再建。関東大震災後の復旧道路建

設で石垣の一部が削られ、昭和8年に復旧し、昭和44年、地下に高速道路を建設する際に解体、積み直が行われ、昭和61年に一部補修が行われている。

今回の工事は、傷みが激しく、危険な部分を解体、修復・復元する工事で、現状を把握するため、3Dのレーザー測量を行い、すべて図面化、石垣の解体を行



え足らず、逆さ石などの不良施工のみならず、コンクリートや安全靴を挟んだ石積み、根石部分も木材を使うなど、不良施工があったため、基礎を変更。根石と基礎を一体化させ、勾配を調整。角石加工、角石据え付けなどの石材加工と石積み作業を行った。

石積みの際には、裏込めにコンクリートを打設する方法が一般的だが、復元

工事ということで、石だけで積む工法を用いた。

石だけで積む工法は、加工の程度により、野面積み、打込み接ぎ、切込み接ぎの3種類に集約されるが、今回は切込み接ぎの典型で、合端と合端をびつたりと合わせる精度が求められる工法だった。

そこで、伝統工法の基本を守りながら、より崩れにくい現代的な工夫を取り入

れて施工。割栗石コバ立後目潰し施工とし、裏込め層と土を完全分離。石垣上部の土部分は、土壌硬化剤を添加し、転圧。防水シートを敷設後、芝張り用土を入

れ、芝張りを行った。

自然林復元工法のすすめ

矢幡 久(公社)日本造園学会九州支部長・西日本短期大学教授・九州大学名誉教授

水公園のシンボルツリーとなった後も、多くの人に親しまれるだろう。

海岸保安林の再生、街路樹の生育に関する調査は、こうした地道な取り組みが将来につながるというと感じた。街路樹の調査は、データとしての適正を保ちつつ、簡便にデータを集める手法は大変合理的。また、学会の発表は、基本的に上手いといったものが多く、海岸保安林のような一部上手くないかつた話も、技術

の話では大いに参考になるのではないかな。

「一本松」は、いろいろな人の考えから、モニメントになったと思うが、動物でいえば、はく製で、遠からず一般の方もおかしいと思うのではないかな。形だけそこにあつて、どれだけの意味があるのか。

命ある風景を生み出し、守っていくのが造園であることを、この機会に改めて見直し、提案していくことが大切だと思つた。

ところが、大分県のある造園業者は、自然林復元研究会を立ち上げ、苗高15・20cmの芽苗と呼んでいる無肥料で雨水だけで育苗した150種にも

広葉樹などを使い、道路法面等の生育条件の厳しい環境下で植林し、みことな成果を上げている。大変に興味をそそられたので、協働で大分県の森林環境税の補助を受けて、耶馬溪の再造林放棄地や大分の海岸で、一般ポット苗と生育を比較した試験を6年前から実施した。ポイントは急傾斜や搬出道路など雑草が生えにくい場所を選んで、平米当たり3本という高い密度で、通常は雑木として邪魔者扱いされる先駆樹種も含めて30種を植栽した。その結果、先駆種のアカメガシワやセンタンのお蔭で半年ほど地表を覆い、ほとんど下刈りなしで立派に成林した。基盤がとれるカヤなど生育が遅いが強光から守られてしっかりと成長しているのも面白い。大分の海岸砂地で一般のポット苗(苗高70cm程度)と成長比較した例では、芽苗のクスノキは3年目で根系が7mにも広がり追い抜いた。この理由は、ポット苗の根がルーピングしているためだと理解され、根が疎らな芽苗では素直に根が拡大したからであった。

しかし、自然環境は複雑であり、耶馬溪で成果がでてでも、条件が異なれば苗高が小さいだけに、草の繁茂する地形では、下刈りの手間が必要以上になる可能性もある。このために、植林地の地形や更新前の植生など条件を把握して、適切な植栽地の条件を明らかにしなければならないと感じている。

仮設住宅内での修景を実施

建仁寺垣の車止め設置 福島県支部

去る10月25、26日に当県支部は、福島県本宮市内の高木応急仮設住宅団地内に、建仁寺垣で作成した車止め7基を設置いたしました(写真)。

この仮設住宅団地は、原発事故により帰還困難区域に指定された双葉郡浪江町の方々の団地であり、長引く仮設生活へ何か貢献でき



今後は管理業務の拡大を

東北総支部・支部交流会を開催

なか、自治会長に「相談したところ、車止めの効果と癒し空間の創出を兼ねた景観を求められました。支部では、技術研鑽も兼ね建仁寺垣での車止めを製作

協会だより

総支部、支部、事務局からの記事を紹介します

東北総支部・支部交流会は11月7日、本部から藤巻会長、佐々木副会長、高梨常任顧問、本間事務局局長、野村技術調査部長を迎え、43名の東北総支部・支部会

その時まで追加金額を把握できないこと。電子納品の手間が増え書類の簡素化が進んでいないこと。Q国道維持管理工事について、5件以上↓2件、予算↓7割程度、苦情処理や緊急対応が多く経費過多となっていること。Q震災復興事業で採算が合うよう造園工事の分離発注をお願いしたいことなどの課題が提案され、本部からA本部・総支部・支部が一体となった要望・提案活動の実施を行いたいとの回答がなされた。

Qシルバー人材センターの進出が顕著で、造園業への影響が懸念されること。A建設工事としての法的な位置づけが課題であり、業種区分見直しを位置づけ、植物育成・維持管理工事を造園工事の内容、例示に加えるよう活動を展開している。Q社会保険未加入対策に取り組み目的。Q下請工事においては、法定福利費の確保が困難。見直し入れても削除されてしまう。元請を指導できる対策。A建設業の持続的発展に不可欠。法定福利費が尊重され

ない場合は、本部から国土交通省に通報する。Q東日本大震災では、防潮堤が壊滅的な被害を受け、復旧・復興に際しては、津波減殺効果のある海岸防災林や防災緑地・公園の計画を造園業界で後世に残る大規模な事業を各関係機関に働きかけて欲しい。A日本造園学会と連携した被災自治体への提言、津波防災緑地に係る技術的ガイドライン作成に際しての国交省への説明等を行ってきたとの答えを得ることができ、有意義な機会となった。(宮城県支部・事務局)



東北総支部・支部交流会のもよう

日造協賛助会員の紹介 47

ブランド・ジャパン(株)

OREGON®は世界中のチェーンソーに使われているソーチェーンのトップブランドです。チェーン、ガイドバー、スプロケットなどその性能とサービスで半世紀以上にわたりご信頼をいただいております。また常に最新技術を投



入し、革新的な製品を皆さまにお届けしております。日本では、ブランド・ジャパンがオレゴン・カッター・システムズの商品の販売を統括。製品供給をはじめ、技術指導、製品情報の提供など幅広い活動を行っております。今回は、どなたにでも簡単にソーチェーンの切れ味を復活させることができる目立てアクセサリ「パワーシャープ」をご紹介します。パワーシャープは、どなたでも簡単にわずか数秒でソーチェーンの切

れ味を復活させることができる、便利な目立て用アクセサリです。目立て砥石を装着したバーマウントシャープナーをガイドバーに取り付ければ、あとはチェーンを回転させ、バーマウントシャープナーのスパイクを固い場所に押しつけるだけ。あつという間に目立てが完了します。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。 (http://www.oregonchain.jp)..... 〒220-6212 横浜市西区みなとみらい2の3の5、クイーンズタワーC12F ☎045・682・4433 FAX 045・682・4434

こんな時代だから もっと積極的に!!

私がこの業界に入ってはや25年。父が造園業をしていたのでおのずと跡を継いだ。この仕事をついたころは、公共工事も多く個人庭園の仕事の後回しにしていたような気がする。 昨今どうでしょう、個人庭園も造る人が少なくなってきた気がする。庭より車・駐車場・車庫を優先し、庭のスペースが無くなっている。



緑 滴

今昔を思い出すと一本の小さな木をトラックに積んで新築の住宅街を廻って売っていたことを思い出す。自分をその一本売って二本目そして庭の設計へと積極的に営業していた。新築した家ですとまず最初に家の家具を取り替え、次に車という順番で変えてゆく。どうしても庭は最

よう。でも庭はそんなに掛かりません。お金のことばかり言っていたのではお客さんは信用してくれませんか。庭を持つ楽しさを伝えなければ。樹木を植えることにより四季を感じたり小鳥が飛んでくことも、そして庭で食事をしたりと、お客様にイメージを思い浮かべるように伝え

後になってしまふ。そんな時は、 「車を買う予算があると立派な庭が造れますよ」そして「生の財産ですよ!」と言って積極的に営業していた。維持費がと言われると、「車だと毎年自動車税・保険・点検・車検代と購入費の一割は掛かるでし

なれば!夢をかなえてあげなければ! (庭を持つことが夢だったことを)そして、自分たちも庭を造る楽しさ味わって仕事をしていた。今こんな時代だからこそ原点に還って一本の木を売る、夢を語ることの大事さと庭を造る楽しさを後輩たちに伝えていかなければと思う! さて、会社においても同じように人材育成をしながら夢を語って思うことがある。街路樹剪定士・植栽基盤診断士の活用をお願いについて、「資格者は何名いるのですか?」とそれで「何名です」と答える。私は思う、「今は何名ですが向こう何年の間に何名まで増やしますので活用お願いします」と言いたい。夢を思っ

建設業社会保険未加入問題Q&A 行政・建設業関係者 必読!! 行政・建設業関係者 必読!!

これを知らないと不良・不適格業者に 『建設業社会保険未加入問題Q&A』 日造協会員を対象に低廉販売も

建設業社会保険未加入問題研究会が編著となり、日刊建設通信新聞社が発行した「建設業社会保険未加入問題Q&A」は、141のQ&A等で保険の仕組みから産業構造のあり方までを解説し、建設業関係者に役立つ内容となっている。 社会保険未加入問題の解決は、建設産業再生の突破口と言われている。社会保険等への未加入は、技能労働者の処遇の低下など就労環境を悪化させ、若年入職

委員会等の活動

■運営会議 社会保険未加入対策の今後の対応、平成25年度収支予算編成フレーム案等について協議した。(11月1日) ■総務委員会広報活動部会 広報日造協11~3月号、次年度に向けた取り組み方向等について審議した。(11月8日、12月3日)

事務局の動き

- 1(木) 顧問会議
- 2(金) 運営会議
- 3(月) 建設業取引適正化推進月間
- 4(火) 技術委員会(都内現場見学会含む)
- 5(水) 事業委員会
- 6(木) 東北総支部・支部交流会
- 7(金) 東日本大震災復興祈念シンポジウム
- 8(土) 日本集会
- 9(日) 総務委員会(広報活

事務局の動き

- 9(金) 近畿総支部・支部交流会
- 10(土) 植栽基盤診断士認定試験(実技試験・東京会場)
- 11(日) 総務委員会(新法人移行検討PT) 諸規程改正検討
- 12(月) アクションプログラム推進等特別委員会
- 13(火) 沖縄総支部・支部交流会
- 14(水) 総務委員会(新法人移行検討PT) 諸規程の改正検討
- 15(木) 東京総支部「街路樹剪定士実技試験」
- 16(金) 植栽基盤診断士認定試験(実技試験・大阪会場)
- 17(土) 運営会議
- 18(日) 中部総支部・支部交流会
- 19(月) 関東地方整備局道路部との意見交換会

事務局の動き

- 1(月) 新年造園人のつどい
- 2(火) 中国総支部・支部交流会
- 3(水) 全国造園デザインコンクール審査会
- 4(木) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 5(金) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 6(土) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 7(日) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 8(月) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 9(火) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 10(水) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 11(木) 全国造園デザインコンクール表彰式
- 12(金) 全国造園デザインコンクール表彰式